

● みなとづくり

1 クルーズ観光の拡大による地域経済の活性化

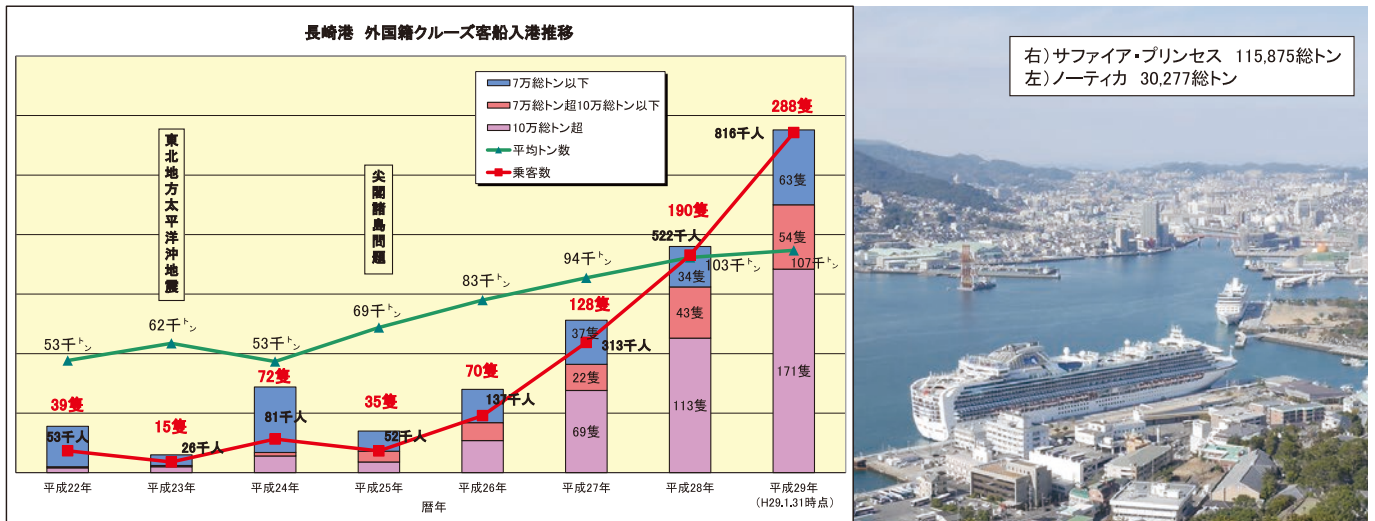
問合せ先 港湾課

長崎港は、近年、観光産業への経済波及効果が期待できる大型クルーズ客船の入港が急増しています。このため、平成29年度は大型クルーズ客船の更なる寄港数の増加に対応できる松が枝埠頭の拡張を推進していきます。

● 長崎港へのクルーズ船の寄港

平成29年は過去最高の約300隻が入港、約80万人の乗客が長崎を観光予定。寄港船舶は、年々増加・大型化の傾向にあり、今後も多くの船舶の入港が見込まれる。

クルーズ客船の受入機能の強化が求められる



● クルーズ船の受入機能の強化

① クルーズ船の大型化に対応するため、港湾施設機能の充実を図っています。



② クルーズ客船の大型化に対応するため、松が枝埠頭で既存岸壁の延伸を行っています。

10万総トン級 1 バース



15万総トン級 1 バース



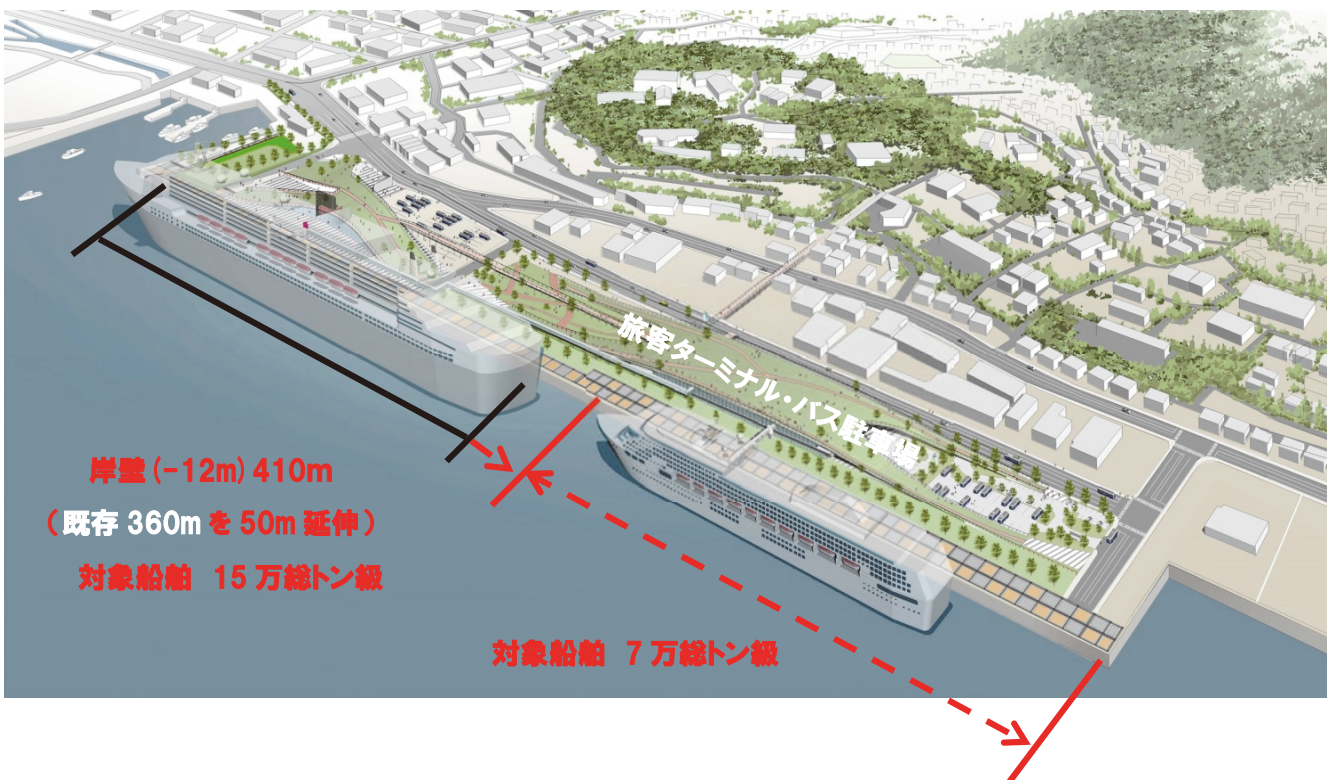
●松が枝地区まちづくり構想の検討

今年度、松が枝2バース目背後用地における、まちづくり構想の検討を行います。

(松が枝2バース整備の効果)

- 15万総トン級客船の安定した係留のみならず、10万総トン級客船の2隻同時係留が可能。
- 客船から駐車場までを直結し、利便性・安全性が向上。
- 海の玄関口の整備にとどまらず、背後の優良な土地活用により、新たな交流拠点の形成が可能。

背後の街並みと調和した都市空間の形成、交通機能の集約を検討



2 離島・半島等の暮らしを支える地域交通の確保

問合せ先 港湾課

離島と本土等を結ぶ定期航路の安定的な海上運輸活動を支え、安全・効率的で利便性が高いみなと整備を進めます。

口ノ津港の定期船埠頭整備及び地域交流拠点の形成

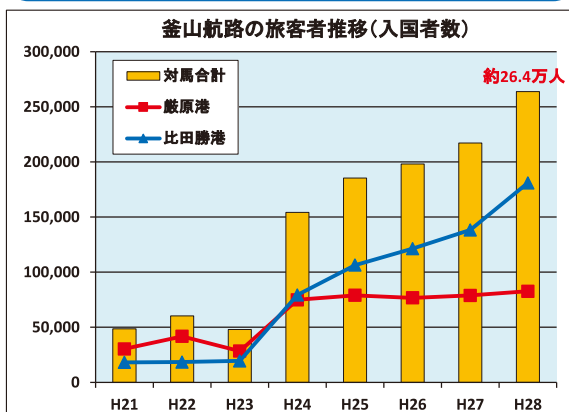


老朽化した施設を更新し、効率的で安定した輸送手段を確保するとともに、南島原地域の交流の拠点を形成する。

巖原港の埠頭再編(旅客埠頭の整備)



近年、対馬-釜山航路の利用者が著しく増加している。
※平成28年は過去最高の約26.4万人



現在の手狭なターミナルビル → 国内・国際を分離する

